

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年7月28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3771400284
法人名	悠悠有限会社
事業所名	悠悠不動の滝
所在地	香川県高松市塩江町安原上東203番地1 (電話)087-840-6155

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年6月8日	評価決定日	平成21年7月28日

## 【情報提供票より】(21年4月1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 5月 10日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	13人	常勤	11人, 非常勤 2人, 常勤換算 12.3人

### (2)建物概要

建物構造	木造造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,500円	その他の経費(月額)	6,000円+実費	
敷金	有( )円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300円	昼食	450円
	夕食	500円	おやつ	200円
	または1日当たり		1,450円	

### (4)利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	17名	男性	6名	女性	11名
要介護1	5名	要介護2	2名		
要介護3	10名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.5歳	最低	72歳	最高	92歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	高松平和病院 塩江病院 小谷医院
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近くに滝(不動の滝)があり、季節によって移り変わる自然環境に包まれて、管理者を中心に職員が一丸となって関わり支援している。運営理念の「やさしい」が十分ケアに反映されている。手作りのカレンダーが居室や共用空間に数多く掲示されており、時の見当をつけられるよう配慮するとともに、あたたかみを感じさせる。利用者のホームでの生活も落ちついていて、安心・安楽の毎日を過ごしていることがうかがえた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>市や関連機関への働きかけとしてホーム便りを置くなど、事業所への理解を深める努力がなされているが、その効果の確認が不十分であるため、更なる取り組みに期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回同様、管理者中心の自己評価が見受けられる。意見集約に終わるのではなく職員が主体的に評価に関わる機会を作り、意義の理解を深めサービスの質の向上、ケアへの反映を期待したい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は定期的に2カ月に1回開催され、多くの参加者の意見が集約できる状況にあり、事業所の理解を深める機会となっている。今後、地域に密着した事業所としての在り方を検討する内容も盛り込み、利用者が地域の一員として関わっていけるような具体的な取り組みの広がり期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面接時、行事参加時、家族会等いろいろな機会に意見・苦情・不安等を表せるよう配慮し、対応している。そうした意見等を貴重なものとして受け止め、運営に反映している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域から孤立することがないように、地域交流を常に念頭において取り組んでいる。自治会への参加等も検討されている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「や」優しい心で「さ」さわやかな笑顔「し」信頼関係を大切に「い」一緒に楽しく、の頭文字である「やさしい」を運営理念としている。どこで暮らしていても大切なことを表している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内では理念が共有され実践されている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会参加が検討されるなど、徐々に地元との関わりが深まっているが、地域で暮らし続けるため、事業所を基盤として積極的な交流が拡大していくことを期待したい。	○	自治会参加で交流の機会が増え、協力体制が拡大していくことを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義について理解はされているが、自己評価が職員の意見集約に終わり管理者中心になっているように見受けられる。	○	自己評価は職員会等で検討し、全員で取り組んで欲しい。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在までに15回開催され、多くの参加者のもとに有意義に取り組まれている。今後も事業所と地域とを結ぶ会議として発展していくことを期待したい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回発行のホーム便りを、市及び関連機関へ置き、理解を深める働きかけをしている。	○	ホーム便りを置く等して働きかけた効果はどうであったか、効果の確認をし、さらなる取り組みに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回近況及び必要事項の報告をしている。アンケート調査を行い、結果を改善課題として日々のケア実践へとつなげている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面接時、行事参加時、年4回の家族会の開催時などの折に意見・苦情・不安等を表せる機会を設けている。それらを貴重なものとして受け止め運営に反映している。直接対応以外に、苦情箱を設置しているがあまり利用はない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員、利用者が暮らしやすいことが何よりも大切と考え、異動は最小限にとどめるということを念頭に取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	第4水曜日に外部講師による内部研修が行われているが、外部研修参加の機会が少ない。	○	積極的に外部研修の参加の機会を増やすよう検討されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の関連3事業所はもちろん、それ以外の事業所とも交流を持つ取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前に抵抗なく開始できるよう、本人はもちろん、家族にも納得してもらえよう、職員、他の利用者との人間関係づくりにも配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、本人を家族として意識し、共に生きる関係づくりに力を注いでいる。人生の先輩として学ぶところも多くあると考えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中から、各々異なる思いや意向があることを理解し、発見に努め、極力希望に添うよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	現在の生活とよりよい状態の差を課題として取り上げた利用者本位の介護計画が作成されている。本人、家族、関係者との話し合いを十分反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化に応じた見直しがなされている。通常の介護計画の見直しは3カ月に1回、チームケア担当者会議も月1回実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の宿泊は布団等準備し、状況によって対応をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院において適切な医療が受けられる取り組みがされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医、家族とも繰り返し話し合い、気持ちの変化にも相応の対応する努力がされている。	○	情報、方針は関係者だけでなく職員も共有できるような取り組みが期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自尊心を傷つけることなく、個人情報の保護、秘密保持は徹底した配慮がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務中心を避け、利用者主体に日々一人ひとりの希望に添った生活ができるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備から片づけまで利用者共々行われ、和やかで楽しく取り組まれている。食事は美味しく楽しいのか、その意欲に驚いた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴者の体調確認に始まり、希望する日に入浴できるよう配慮され、一人ひとりの希望とタイミングを重視した支援をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	絵手紙、手話等趣味と生きがいを見つけ気晴らしをしている。喫煙も楽しみのひとつである。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩コースの不動の滝は、四季折々の風情があると想像できる。ティータイム、昼食も時折戸外で楽しんでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけると閉じこめられると錯覚し不穩に落ち入るので、昼間は施錠を避け、見守りをするよう努力している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練、消防訓練をしている。夜間も想定して実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給は十分配慮され記録もされている。摂食量、栄養バランス等も柔軟な対応がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテン、ブラインド、すだれで採光調節がされ、TVの音量調整等も適当で、居心地のよい共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものの持ち込みや自分なりの工夫で居心地よい居室となっている。		